

令和元年度 第72回 獨協高等学校

卒業証書授与式に寄せて



令和2年3月10日

獨協学園理事長 吉田謙一郎

獨協高等学校卒業生の諸君、またご父母の皆様、本日はご卒業おめでとうございます。獨協学園の理事長をしております吉田です。令和の年号になって初めての卒業式です。私も理事長として初めての獨協高校の卒業式です。そういう意味で、諸君にとっても、ご家族や教職員にとっても、また私にとっても記念すべき卒業式のはずでしたが、新型コロナウイルスのアウトブレイクで、諸君の卒業式に出席することができなくなりました。卒業を喜ぶ君達の顔を見ることができないのは誠に残念です。

さて本日、卒業生諸君がこの日を迎えられたことは、君達のこれまでのたゆまぬ努力の賜物であることは言うまでもありませんが、諸君を絶えず気遣い支えてくださったご家族、また渡邊校長先生を始めとする獨協中学高等学校の先生方の厳しさの中にも、一人一人への思いやりに満ちた教育があったからこそと思います。君達はこのことをしっかりと胸に刻み、次のステップへスタートして下さい。本日卒業した諸君は、明治16年、1883年に創立された獨逸学協会学校、日本の近代化に向け多くの有能な人材育成を行った学校を、そのルーツにしていることを大いなる誇りとして、これからの大学でまた社会で大いに活躍して欲しいと思います。

獨協学園の教育の理念は、「学問を通じての人間形成」です。獨協大学の創設者である天野貞祐先生は大学を創るに当たって、「獨協大学のねらい—学問を通じて人間形成の場の一—」というところで4つのことを述べています。そのねらいの一つに、「教養があり、しっかりとした精神的背骨を持ち、しかも外語（外国語）を自由にする人格であることを期する」、としています。言い換えれば「しっかりとした教養と信念を持った国際人」を目指すということです。君達は、卒業後は獨協学園の教育の理念である「学問を通じての人間形成」という言葉を自らの信条・信念として、立派な大人として振る舞い、国際人として世界を舞台に大きく活躍する人物に育て下さい。君達がこれから踏み入る社会、また世界は全く先が読めない状況にあります。緊迫する中

東情勢、米中覇権争い、北朝鮮問題、自国中心主義の広がり、今回の新型コロナウイルスで見られる様な新たな感染症の出現と、そのアウトブレイクなど、これらに我国も大きく影響を受けています。また我国ならではの問題も抱えています。それは加速化する少子高齢化、人口減少、長引く景気の低迷、膨れ続ける国の財政赤字などです。君達はそのような不安定な社会に、選挙権を有する大人としての第一歩を踏み出していくこととなります。だからこそ君達には自分自身のぶれない信条、あるいは哲学を身につけていることが必要になるのです。高校で学んできたことを糧に、これまで以上に心身を鍛練し、自分自身に磨きをかけ、この分野にかけては誰にも負けないというスペシャリティを身に付け、ソサイアティ 5.0 の未来社会を切り開いて下さい。必要なことは努力することです。生まれつきの天才などはいません。トーマス・エディソンは「天才とは1%のひらめきと、99%の努力である」といっています。また野口英世は「誰よりも3倍、4倍、5倍努力するもの。それが天才だ」といっています。君達は努力を惜しまず若者ならではの柔軟で豊かな発想の下、自らの夢を追求して下さい。社会情勢をしっかりと読み取り、確固たる信念の下、自己を確立し、ここからの輝く人生を切り開いて下さい。

さて諸君をここまで育てて頂いた教職員の皆様、そしてご父母の皆様に改めて敬意を表したいと思います。生徒たちはこの6年間、思春期の真っ只中であって、大人に向かって心身が不安定な時期であったと思います。これを支えて来たのはご家族で在り、教職員の皆様です。今や選挙権を有する大人となりました。私は、本日卒業する学生達がこれからの日本を、また世界を背負っていく人間として、きっと活躍してくれると信じております。

最後になりますが、諸君は本日獨協高校を離れるに当たって、伝統ある獨協高校の卒業生であるという誇りをもって、新たな旅立ちをして下さい。

本日は卒業おめでとうございます。